



令和3年度 第3号 令和3年6月11日

鶴 星

阿久根市立鶴川内中学校

校 訓

スクールコンセプト

ともに夢と希望を育む鶴川内中

協 自 自
調 律 主

一 校 一 風

育てよう花と心と大きな夢を

校長室の窓から

私家版「ちょっといい話」

校長 中山 武広

以前、出張で佐賀県に行ったときの事です。全九州中学校長研究大会という会合への参加でした。長時間にわたる会合の休憩時間、混雑しているロビーから離れて、人気のない階段下に置かれた自動販売機で飲み物を買いました。おつりを取り出してみても、金額が多いことに気づき、あたりを見回すと、私の直前に利用していた人が近くにいたので、「おつり、忘れてますよ」と声をかけました。その人は、缶コーヒーを片手に、「どなたかの取り忘れですね。今戻したんです」と言いました。はっとしました。衝撃を受けたまま、私も、その人にならって、釣り銭口に300円余りを戻しました。

☆☆☆☆☆

阿久根市内で私がよく利用するコインランドリーは、標準量用の乾燥機槽が上下二段になって横に3列ほど並んでいます。行き始めの頃は勝手にわからず、洗濯物を下段槽に入れて200円を投入し、高温乾燥スイッチを押したら、上段槽が回転し始めたことがありました。投入口の上下を間違えたのです。返却は効かず、泣く泣く財布からもう200円を取り出し下段用の投入口に入れ直したのです。上段槽が空っぽだったのは不幸中の幸いで、だれかの洗濯物を過剰に加熱して縮ませる罪は犯さずにすみしました。

それはともかく、去年の梅雨の時期のこと、同じコインランドリーに行き、百円玉がなかったので両替しようとする、先客が両替をしていました。その人が終わるのを待って、私も両替機に五百円玉を投入しました。取り出し口から百円玉を取り出すと8枚もあります。私は、先客の高齢男性に、「お金、残ってましたよ」と声をかけました。その方は、「ああ、だれかの取り忘れやね。元に戻せば」と答えました。再び衝撃を感じつつ、「あ、ですね」と応じ、私は300円を釣り銭口に戻しました。

☆☆☆☆☆

300円程度であれば、「ラッキー！」とばかりに自分の財布に入れたとしても、さほど罪悪感を覚えることもないかもしれません。しかし、私が出会ったお二人は、そうすることをよしとしない方々でした。同じような場面に二度も出くわしたことを考えると、このような清廉な心得の人というのは、思いのほか多いのかもしれません。200円を追加するのに「泣く泣く」の私ですが、お二方のことを思い浮かべると、そのたびに心が洗われるような気がして、私の中のちょっといい話になっています。

主な行事予定

月	日	曜	6月～7月前半の主な行事
6	10	木	教育委員訪問, 小中連絡会
	15	火	地区総体(～16日)
	17	木	部活動停止(～23日)
	22	火	期末テスト(～24日)
	25	金	授業参観・学級PTA フッ化物洗口保護者説明会
	29	火	防災訓練
7	1	木	市小中弁論大会 SOSに関する命の授業
	2	金	PTA親子学習会↓ 学校規模適正に関する説明会
	6	火	職場体験学習 (2年2日間, 3年3日間) 性に関する講話(1年)
	13	火	租税教室
	14	水	出前授業・学校運営協議会 Yahoo企業訪問(zoom)
	16	金	ハンヤ踊り体験学習
	20	火	終業式
	21	水	三者面談(～7/31)



「広報あくね」(令和3年度6月号)に青木椿花南さんの題字が掲載されました。是非、ご覧ください。

努力目標

生活のリズムを整え、起立ある生活に努めよう。

一事徹底

スコラ手帳に3点基本行動時間を記入しよう。

地域ボランティア活動

5月8日 地域清掃など行い、1年生は避難場所である地区集会施設も確認しました。



各担当場所の地域の美化のため奉仕作業に精一杯取り組みました。1年生は各自がゴミ袋を持ってゴミ拾いをしながら鶴川内集会施設までの避難経路の確認もしました。

健康教室

5月25日 心肺蘇生法(胸骨圧迫の方法、AEDの使い方)について学びました



「あなたにしか救えない大切な命～君の瞳とともに」のVTRを視聴し、9つのポイントを踏まえ、胸部圧迫の実技演習を行いました。

電気ショックが1分遅れると救命率が約10%下がると言われており、1秒でも早く電気ショックを行うことが理想です。また、胸骨圧迫は心停止の傷病者を社会復帰させるために一番大事な行動です。救える命を救える人を目指しましょう。

学校運営協議会

5月19日(水)に行いました。今後どうぞよろしくお願ひいたします。

「学校運営協議会」は、法律に基づき教育委員会より任命された委員が、一定の権限をもって、学校の運営とそのために必要な支援について協議する合議制の機関です。学校と地域が力を合わせて、目標やビジョンを共有し、これからの時代を生き抜く力を育成することを目指すものです。第1回の主な内容は、学校経営方針、生徒の実態等でした。協議会については保護者及び地域住民の方々も傍聴することができます。傍聴希望の方は、あらかじめ会長の田代信郎さんに連絡をお願いします。

氏名	職名等
田代 信郎	本会会長・市消防団副団長
児玉 利明	副会長・同窓会長
安里 吉明	地区区長代表
末吉 栄子	地区民生委員
青木 緋紗子	PTA 会長
新塘 征一	PTA 副会長
中山 武広	校 長
土屋 雅宏	教 頭

★市総合体育大会近し。終わった後に何を残すか。何をを目指すか。

この1本をとっておけば・・・この1点を入れておけば・・・あのボールを追ってれば・・・多くの大会、試合でこういう場面が必ず存在する。そして、この場面にいち早く気づき、考え、行動した者が勝利に限りなく近付ける。では、その場面に力を出せる人はどんな人だろう。その「1つずつ」にこだわるのは誰なのだろう。

3年間、部活動を続けた意味がわかる時であってほしい。時には泣くことも悔しいこともあったらう。辞めたい時も逃げたくなる時もあったらう。今だけは変えることができる!それまでの時間をいかに生きるかだ。すると、総体を終えた後、これからをどう生きるか見えてくる。試合のみならず、それまでの練習、日常の中にこそ宝物はあるはずだ。戦う相手は常に自分。日頃の自分がコートにはそのまま出る。

たとえば、テストに向かう自分と試合に臨む自分は同じ。授業は練習だ。テストは試合だ。筆記具はシューズであり、ノート・机はユニフォームだ。昼食・授業準備は試合前のアップだ。掃除は控え室やベンチの整理整頓だ。朝の会・帰りの会はミーティングだ。そのことに気付けた者に勝利の女神は微笑むように思う。

凡事徹底とは「当たり前のことを欠かさず継続して実行していくこと」「当たり前のことを人にはまねできないほど一生懸命にやること」という意味。

平成20年、沖縄県代表の浦添商業高校の掲げたモットーが「凡事徹底」。野球でも日常生活でも、どんな小さなことでも手を抜かない。わずかな心の乱れが野球に影響すると考えている当時の監督・神谷先生の信念はどんな時も揺らがなかった。甲子園出場をかけた県大会直前、ベンチメンバーの1人が朝練習に遅刻。神谷先生は、このことを軽く流さず、その選手を登録メンバーから外した。当然、戦力ダウン。もしかしたら、甲子園にいけなくなるかもしれない。それでもチームの方針を貫いた。「もし、それで負けたとしても後悔はない。そのせいで負ければ、それまでのチームということ。それを許して勝ったとしても嬉しくない。野球の実力だけ見れば外せないかもしれない。でも野球はチームスポーツ。徹底することはとことん徹底する。当たり前のことを当たり前にするのは大事。野球以上に大事なことがあるということに分かってほしい。」県大会でメンバーに外された選手は、その後、必死でチームのために準備や後片付けなど裏方の仕事をやった。その行動と姿をチームメイトが認め、甲子園ではベンチメンバーとして登録され、その年の夏、甲子園で沖縄県代表の浦添商業高校はベスト4になった。

今一度、自分自身の生活を見直そう。授業中に集中せず、提出すべき宿題をせず、中身も形だけ。清掃一つ、挨拶一つ、返事一つ、集中できない。そんな人に限って市総体で、入試でよい結果を残したいと豪語する。何か大事なことを忘れていないだろうか。「凡事徹底」に鶴川内中生の本気を示す毎日であってほしい。もう、そろそろ、そのことに気付いている人も多くなっているのではないかと考えている。

